



発行 日蓮聖人門下連合会 〒146-0082 東京都大田区池上1-32-15 電話(03)3751-7181

平成10年8月1日 第18号

お願い

「門連だより」の継続発展のため各派のご協力を切にお願いいたします。本紙に対する感想要望など、ぜひお寄せ下さい。「日蓮聖人門連だより」編集委員会一同

七五〇年御報恩のテーマとは

七文字のお題目を一万遍唱える

リレー提言⑧

平成十四年、我々日蓮聖人門下では開宗七五〇年を迎える。ますます混迷する現代社会の中で、我々は何をなすべきか。各門流様々な企画が進行中である。後世のためにも、門下総力を上げて今この時代に爪の跡を残し祖恩報謝に勤めよう。

立教開宗七五〇年御報恩 唱題行とその実践

私も陣門流は、昨年(平成九年)にお迎えした総本山本成寺の開創七百年の奉讃記念浄業のため、御開山



▲ 総本山本成寺大本堂



▲ 富山県別院本法寺

法華宗陣門流宗務総長 土屋 善敬



善敬

事の血脈とは云ふ也。(生死一大事血脈抄)

その五年ほど以前より奉讃会を結成し、わずか一七〇カ寺ほどの実勢である私どもには、精一杯の大浄業であったと自負しております。

この記念浄業はすべて、永い年月に古りた総本山本成寺諸堂の、修繕事業でありましたが、その円満成就の最大要因は、宗内僧俗あげて一致した護法愛宗の念によるものと実感した次第であります。

私ども陣門流には、ご本山のためならば……と云う習わしが、まだしっかりと残っていることを確信いたしました。

どのように侃々諤々の議論百出になろうとも、ご本山のための一点で小異を捨て美風に扶けられた思いがありました。

水魚の思い、異体同心の 祖訓を体し強固な連携を

総じて日蓮が弟子檀那等、自他彼此の心なく、水魚の思いを成して、異体同心にして南無妙法蓮華経と唱へ奉る処を生死一大運動も、私どもは継続して実施いたしました。奉納されたお題目旗は、総本山大本堂に通ずる参道両側のすべてに林立いたしました。このお題目は、数人で、講中で、本堂で、又は一人で肅々と唱え続けたいお題目でした。

参道を往く唱題太鼓の行列と、お題目奉納旗のはためきと、大法要は

▼人事(事務局への連絡日も含む)

Table with columns: 年月日, 氏名, 宗派(役職名), 門連役職, 就任, 退任. Lists various members and their roles across different branches.

御遷化 平九・一〇・二〇 塩田義朗師(日蓮宗・門連顧問) 一〇・二六 肉倉貴義師(日蓮宗・門連監査)

從地涌出

世界は未曾有の危機に瀕している。21世紀に目前に地球規模での温暖化、環境汚染が警告されてから久しい。一方、冷戦終了後も湾岸戦争やボスニアに見られる様に民族紛争の種は尽きぬ。日本一國を顧みても政治不信、大蔵日銀官僚役人による汚職、パブル経済崩壊による付けが、平成大不況となり、経済状況には暗雲が垂れ込めたままである。人心の荒廃は人のみならず、家庭崩壊、犯罪の低年齢化、援助交際等不正腐敗、倫理道徳の欠如、戦後の教育問題を含め、日本の土台そのものが揺らいでいる。権利自由を錯認して解釈し我が儘、好き勝手な行動を通る。刺之君が代「日の丸」を認めない奇妙な日本人すら未だ大手を振っている。科学文明の限界、心の時代と叫ばれてもオウムのように邪教が蔓延する。世は正に末世。「如何なる世の乱れにも、各々をば法華経、十羅刹助け給えと、濡れる木より火を出し、乾けるくさより水を儲けんが如く、強盛に申すなり。」(阿責勝法滅罪抄)鎌倉時代日蓮聖人が末法の罪業を認識され、但惜無上道のご決意の下、お題目を唱え始められて、七五十年の聖年を平成十四年に迎えるに当り、この時を意識しての門下各派の更なる精進を期待するもの大である。

比叡山横川定光院護持顕彰に向けて

定光院は立教開宗の原点

門連だより編集委員会 藤井照源
横川定光院運営委員会委員



聖祖のご霊覚はいかなるものか、旭森開宗につながる本化上行垂迹のご自覚をもたれたこの霊跡をおろそかにしてはならない。

平成四年宗祖比叡山遊学七百五十年を迎えるにあたっては、日蓮宗門法要を中心に三日間全国より僧侶檀信徒が集結した。宗門法要は、日蓮宗管長岩間日勇現下を大導師に、天台座主山田恵諦現下御親修のもと比叡山大講堂で奉行、前会後会は横川定光院でそれぞれ厳修した。平成二年より、横川定光院の護持運営にあたり、日蓮宗と比叡山延暦寺がかなりの回数を重ねて協議、交渉を行

い、平成五年四月一日、日蓮宗と比叡山延暦寺が定光院の管理運営の協定書を結ぶに至った。協定書は、当時の日蓮宗宗務総長伊藤通明師、比叡山延暦寺執行・定光院代表役員小林隆彰師の契約となっている。

この協定を機に、日蓮宗では、横川定光院護持管理規程を制定し、初代主監に日蓮宗近畿教区長大塚泰詮師、主任には京都市本福寺住職花島晴昭師が就任、又、本山本法寺貫首金山寛成現下を運営委員長とした運営委員会が組織された。そして、僧侶檀信徒が一体となって定光院を顕彰する、日蓮聖人横川定光院護持顕彰会が発足、定光院の護持運営が、より具体的に、より深く進む事となった。特に、表参道、裏参道の整備を始め寺観一新に向けた事業が着々と進んでいる。春秋の法要に際しては、春季法要は日蓮宗近畿教区十二宗務所が輪番で、秋季法要は顕彰会が当番にて奉行、毎回多くの参拝者が登詣、宗祖へ報恩の誠を捧げている。

日蓮宗と比叡山延暦寺の協定 日蓮宗宗門史跡に指定

定光院の護持運営の歴史を振り返る時、十六本山各貫首現下、田中庄次郎氏を中心とした保存会、法華俱樂部等、又、愛山護法の信徒の連綿とした足跡が、現在の礎石となっている。以後、保存会と法華俱樂部が日蓮宗の働きかけにより一致団結し、奉讃会が結成され春秋法要を中心に、護持運営に当たって来た。縁

あつて、昭和六十三年五月、比叡山開創千二百年法要には、根本中堂にて、日蓮宗管長金子日威現下大導師のもと、全国門下連合会各聖の御尽力と、全国より参集した檀信徒のご厚情により、日蓮門下の役割を果たすことができた。以来、横川定光院の存在感が日々増して来たのも事実である。

先師先哲の愛山護法

比叡山横川定光院は、日蓮聖人が二十一歳の時から三十二歳迄の十二年間研鑽された道場で、無動寺俊範上人について法華一乗を学び、南都六宗・高野山・四天王寺などを訪ねて、仏教の奥義を究められ、法華経こそが釈尊の説き示す真実の教えであることを悟られた。比叡山延暦寺

は、東塔・西塔・横川の三塔に分かれており、当時は三千の僧が修行に励んでいた。横川は三塔の中でも最も厳しい環境であるが、その環境の中で修学が立教への開示、すなわち「南無妙法蓮華経」の真髓を生んだのである。



定光院境内に立つ日蓮聖人銅像

立教開宗七五〇にむけて 五万人講発足

横川定光院護持運営のレールが敷かれて以来、日々参詣者の数が増えて来ている。日蓮聖人立教開宗七百五十年に向けて、横川定光院は本堂庫裡改築の事業を発願。五万人講を組織し、全国有縁の人々に協力を呼びかけている。

さらに、日蓮聖人十二年間の遊学修行の聖地として、平成七年二月一日、日蓮宗より宗門史跡に指定された。時恰も、同年、定光院日蓮聖人銅像建立七十周年を迎えた。この銅像は、大正期、日蓮聖人御生誕七百年記念事業として日蓮聖人門下各宗、京都諸山僧侶檀信徒一致協力の下東京にて鑄造され、大正十二年九月二日、奇しくも関東大震災の翌日、

日蓮聖人門下連合会

●目的
本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

●事業

- 1、祖廟護持の組織強化
- 2、教育事業の提携
- 3、布教の連合強化
- 4、懇談会・研究会・講演会等の開催
- 5、各種出版物の刊行
- 6、海外布教の提携及び交流
- 7、対外的な各種の運動
- 8、その他

●加盟団体

日蓮宗	法華宗本門流
顯本法華宗	法華宗陣門流
本門佛立宗	日蓮本宗
法華宗真門流	本門法華宗
国柱会	日本山妙法寺
京都門下連合会	

定光院
大津市坂本横川
〇七五—七九—三〇二七

第17号の訂正
▼人事・原井慈風師
×退任→○就任

「立教開宗750年」

信頼の輪をつなぎます。

日本旅行は、一人一人の夢をカタチにするために、夢を実現するための新しい旅をお届けします。旅づくりの経験によって培われた企画・発想力を生かし、21世紀に向けて積極的に取り組んでまいります。



暑中御見舞

平成十年戊寅

日蓮聖人門下連合会



日蓮宗宗務院

管 長	田中 日淳	護法伝道部長	上田 尚正
宗務総長	永井 祥文	立教部部長	松井 義昭
宗務副総長	渡辺 一之	宗務部部長	石川 浩徳
総合企画部長	加賀美泰全	現代宗教研究所長	中條 令紹
庶務部長	小松 浄慎	国際開教室長	前田 幸廣
財務部長	篠原 智高	人権対策室長	与 堀江 宏正
教務部長	二宮 将泰	参 与 浅井 玄裕	孝精
		日蓮宗編輯長	垣本 孝精

〒146-0082 東京都大田区池上1-13-11-15
電話 〇三三三三(七五)二七二八(代)
FAX 〇三三三三(七五)二七一八(代)

法華宗(本門流)宗務院

管 長	鈴木 木日有
宗務総長	原 井 慈鳳
教化部長	圓 成 淳龍
教学部長	桃 井 晋城
財務部長	坂 卷 顯導
庶務部長	矢 吹 慈英

〒170-0004 東京都豊島区北大塚1-126-14
電話 〇三三三三(九一)〇四七五(代)
FAX 〇三三三三(九一)七九九四

顕本法華宗宗務院

管 長	吉永 日晴	布教部長	阿曾 久成
宗務総長	中山 昭夫	庶務部長	三坂 岳広
宗務次長	山本 学人	主 事	山本 晃道
財務部長	白井 謙光	多門 顯正	
教務部長	奥村 智学	津村 乘信	
社会部長	鈴木 無着	小松 正学	

〒606-0015 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五(七九)一七一七(代)
FAX 〇七五(七九)一七二六(代)

法華宗(陣門流)宗務院

管 長	竹嶋 日香
宗務総長	土屋 善敬
宗務部長	都 築 哲信
教学部長	佐 古 弘文
教化部長	門 谷 東生
財務部長	八 木 惠岳

〒170-0002 東京都豊島区巢鴨五-135-16
電話 〇三三三三(九一)七二九〇
FAX 〇三三三三(九一)〇二二一

本門佛立宗宗務本庁

講 有	井 上 日慶
講 導	梶 本 日裔
宗務総長	小 山 日誠
宗務副総長	笹 田 日昌
宗務副総長	佐 藤 政司
宗務本庁役員一同	

〒602-8377 京都市上京区御前通一条上東整町二〇番地
電話 〇七五(四六)一六一六(代)
FAX 〇七五(四六)一五五九(代)

日蓮本宗宗務院

管 長	嘉 儀 日有
宗務総長	田 中 良英
宗務部長	今 村 要道
財務部長	岩 崎 隆義
法務部長	佐 藤 哲夫

〒606-8362 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八
電話 〇七五(七七)一三三九(代)
FAX 〇七五(七七)一五九一(代)

法華宗(真門流)宗務院

管 長	真 枝 日世
宗務総長	吉 田 研宏
宗務部長	上 田 浩岳
教学部長	辻 本 寛孝
教化部長	寺 田 完英
財務部長	水 野 智啓

〒602-8447 京都市上京区智恵院通り五上上ル紋屋町三三〇
電話 〇七五(四四)一五七六(代)
FAX 〇七五(四四)一五六六(代)

本門法華宗宗務院

管 長	松 本 日望
宗務総長	高 邊 信幸
宗務部長	信 隆 允忠
財務部長	増 田 隆雄
庶務部長	藤 井 宏長
教務部長	音 畑 信教
門連常任理事	持 地 光全

〒602-8418 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
電話 〇七五(四五)一三五二(代)

国柱会

宗教法人	
会 長	田 中 暉丘
理 事 長	三 田 道弘
副 理 事 長	入 江 克郎
門連常任理事	大 橋 邦正
門 連 理 事	淀 野 寿夫
本部事務局長	石 見 良教

〒132-0024 東京都江戸川区一之江六一一九-118
電話 〇三三三三(六六)七一一一(代)
FAX 〇三三三三(六六)九九八〇

京都日蓮聖人門下連合会

会 長	真 枝 日世
副 会 長	金 山 日龍
理 事 長	岩 崎 暉
副 理 事 長	杉 山 惠隆

京門連事務局
〒602-8447 京都市上京区智恵院通五上上ル紋屋町三三〇
電話 〇七五(四四)一五七六(代)
FAX 〇七五(四四)一五六六(代)

日本山妙法寺

首 座	上 野 行量
長 老	塙 行幸
長 老	石 山 善邦
日印サレ水夕交友 会会誌発行編集人	今 井 行順
天敵出版発行編集人 日本山妙法寺事務局	松 谷 被鏡

〒150-0065 東京都渋谷区神泉町八一七

に向けての提言(1)

から20年

十六年前(昭和五十六年)に日蓮聖人ご入滅七百遠忌をお迎えして日蓮聖人門下連合会では、ご承知のように日蓮聖人のご真蹟をはじめとして各宗派所蔵の重宝をあつめて開催された「日蓮聖人展」・作詞西川満氏、作曲黛敏郎氏による「オラトリオ日蓮聖人」・前進座による日蓮聖人ご一代の演劇「日蓮聖人劇」門下各宗派の次代を担う青年たちが集い「七〇一年の旅立ち」をスローガンに太平洋上に船出した「青年の船」等各宗派異体同心の結束のもとに四大事業が成し遂げられた。

門下連合会が昭和三十五年に結成されて以後、かずかずの共同事業が行なわれ、多大の業績が残されてきたが、七百遠忌のご報恩四大事業は門下連合会の歴史にのこる誠に意義深いものであった。

とりわけ注目すべき点は各宗派より数名の青年たちが実行委員となり計画、立案し、実行にあたってはその運営までも任せられ多大の成果を取った「青年の船」である。今も記憶に新しくのこっている。勿論、門下連合会理事会、各宗派教団の「青年の船」企画実行への英断と、それに対するご理解と多大なるご尽力、加えて青年たちへの信頼をいだけたお陰は言うまでもない。

日蓮聖人の教えを外に向かつてアピールする目標として「めざせ立正安国」を掲げ、内には「青春さまざま

ま信仰は一つ」を表し、青年男女五百名が結集し十一日間の船中にて運命をともし、そこには各宗派の独自性をのりこえ、日蓮聖人のもとと題目を唱える仲間として、心を開き語り合い異体同心にして皆帰妙法広宣流布と、まさに七〇一年への旅立ちにふさわしい成果を取った。

この成果により昭和六十年、門下連合会結成二十五周年においては門下青年の結束を将来に向けて強めていく旨の発表があり、翌六十一年には門下連合会機関誌「門連だより」の創刊号が発刊となった。

ちなみに「門連だより」の編集委員各聖は「青年の船」実行委員が大多数であった。船の仲間として各宗派の事情を越えての取材・編集・校正と門下連合の連帯をたかめる一役を担っており平成十年一月には十七号の継続をみる。

本年七百遠忌より十六年、この度は我々の原点である立教開宗七百五十年を四年後に迎えるにあたり、今門下連合会においてはどのようなご報恩がベストなのか慎重に審議がなされているが、私見としては七百遠忌の「青年の船」の若者のエネルギーを行動力、機関誌「門連だより」の情熱ある継続等にキーポイントがみうけられると思う。

今日の日本国内においては経済の低迷、心の崩壊、高齢・少子化社会、政治不信等、混迷の渦中において、

鑑みるに二十一世紀が、あるいは次の百年が人類滅亡の時代になるか、これは一人ひとりの若者が真の人の心、人類愛と自然に対する愛、即ち法華一乗妙法の慈悲心を持っているかどうかにかかっているのではないかと、いじめも殺人も自然破壊もないような、人類の楽園がくるかどうかは、ひとえに自分たちの法華経精神による自己改革と、そしてまた家庭、学校、社会における若者の信心教育にかかっていると思う。

そこには良い意味での歴史と伝統があるからだともうけられるが、経済社会を生き抜く企業にとっては社会の流れを的確に判断、把握し、それに応えるべく人材養成がなされている。自動車メーカーの日社などは若手の柔軟な発想や、意見を上層部に的確に取り入れ、より良いコミュニケーションがあつたことが、成功

の要因であつたと言われる。いずれの社会にあつても、青年のもてる可能性を理解し存分に伸ばしつてやるのが最も重要である。

宗祖の立教開宗の大宣言をなされたときは、御年三十二歳であり、撰時抄の御文には「夫れ仏法を学せん法は必ず先ず時をならうべし」と仰せられている。

開宗七百五十年を目前に控えて「今正しく是時なり」である。宗祖の御一生は三世の中で現在(今)を基軸に時を考えられ、時に応じる活動

をなされたのである。平成十四年はあらたなる出発点である。今こそ熱い情熱と燃える信念をもつ青年たちが宗祖の二陣、三陣となつて立ち上がり異体同心にして、青年の実行力を発揮して、もつて各宗派全寺院が日蓮聖人門下連合会の存在と理解を深めることへの運動を起し、各宗派の教義を尊重しつつ、お題目のもと各宗派連携して一丸となり「めざせ立正安国」へと邁進することを切に熱望するものである。

「団結」を共通理念として、八つの基本事業を掲げながらその実現推進をするという原点を見つめ直すことが大切であろう。

門流の歴史的節目にその時代背景を見つめながら、各種の共同事業を展開されてきた成果は決して無意味なものではなく、それぞれ後世に継続的な課題を含めて成果をもたらしてきたことも事実であろう。

しかし、歴史的節目の当年前後は各種イベントや布教伝道等の面でも、一時的に活性化しますが、時が終ると戻すばかりになってしまふ傾向は、何時も若干の寂しさを禁じえないものがある。

スローガンに提唱してある「教育事業の提携」「布教の連合強化」「研究会・講習会開催」といった、課題が継続実現の障害となつているのか、取組みの基本姿勢から参加教団が、今一度考え直す必要がある。

現状の門下連合会の実態は、親睦交流の域を脱しないものがあろうし、参加教団の未寺僧俗のレベルで、どれだけその存在や活動状況を認識されているかや問い直したとき、希薄なものがあるろうし、組織論として考えるならば、更なる啓蒙が急務であらう。

二十一世紀を目前にした、現代社会は混迷の度を深めている。高度成長期の加速的な社会エネルギーは、近年のバブル崩壊と共に霧散してしまひ、その反動として残った虚脱感と、不確実な時代予測に大衆は困惑している。

同時に金権腐敗に象徴される政治不信、子供社会に蔓延するイジメ問

門連に青年の息吹を
本門法華宗 持地光学

「連絡」「協力」「団結」
顕本法華宗 朝倉俊幸

門連だより第16号・第17号では本紙編集委員による匿名座談会を通じ「門連共通の課題」をさぐり、立教開宗七百五十年に向け、門下連合会はもとより、門下各派の僧侶檀信徒が手をたずさえて、共通のビジョン達成に歩みを共にする道筋が、かすかながら描かれたやに思われる。

本号を皮切りに、七百遠忌門連共同事業「日蓮聖人門下青年の船」実行委員の方々にスポットをあて、「七〇一年の旅立ち」を構想した当時のエネルギーを七五〇に向け、門下共に何をなすべきかについて御意見をいただくこととなった。

本門法華宗持地光学師、顕本法華宗朝倉俊幸師、本門佛立宗深澤泉奥師にまず御登場ねがい、順次、御意見を開陳していただく方針だ。

門連に青年の息吹を
本門法華宗 持地光学



サイパンに上陸、ただちに戦役者慰霊法要 (パンサイクリフにて)

立教開宗750年

日蓮聖人門下「青年の船」



大きな夢を乗せ、立正安國の実現をめざした船出(昭和57年3月26日横浜港を出港)

題、自然破壊・生活環境問題等々
数々の社会問題が噴出し、現代社会
の病巣は根が深い。

このような社会不信、人間不信の
時代下、我々日蓮大聖人門下として
宗祖が御生涯提唱された「立正安國
(論)」に示唆されている教えを真摯
に見つめ直し、「法華経」の教える人
間尊重や自由(解脱)や平等の教え
を普遍し、混迷する現代社会に光明
をなげかけられるよう、門下教団に
身を置かせて戴いている一人ひとり
が「安國論」の後史を引き継ぎんと
する決意がなくてはならないのであ
る。

宗教がその時代背景、世相から派
生する諸問題に敏感に反応できなく
なった時、その生命・理想は色あせ
たものになってしまうであろう。

末法思想の視点で現代社会をとら
え直すとき、正しく日蓮大聖人が激
動の鎌倉時代の世相を鋭い凝視と深
い洞察をもってとらえられ、それら
の時代下に苦悩する民衆の真つ只中
に飛び込まれ、様々な事態を通じて
増幅されてゆく多くの課題や試練
を、真正面から受けとめられ、末法
救済の根本に、己の救済に増して社
会(世相)浄化に力を注がれたお

志を見失ってはならないであろう。
混迷する世相の下、「このころの時代
の大切さ」が叫ばれ、人間尊重・心
の豊かさ、実り多き老後を求める
人々の切なる願いにこたえるために
は、我々も現代社会が生み出す様々
な問題、課題に厳然と対峙しながら、
日蓮大聖人が取り組まれた視点を再
認識することが肝要であろう。

鎌倉の辻に立ち、往来する人々に
訴え、啓蒙し続けられたお姿を忘れ
てはならない。
門下教団が、それぞれの歴史と特
異性に固執することなく、日蓮大聖
人の原点に立ち返って、「連絡」「協
力」「団結」の共通理念のもと、先学
の師が提唱されたように「仏陀を背
負いて街頭へ」の決意をもって、法
華経の教えと日蓮大聖人の御精神の
一言なりとも伝えんとする実践行
あるのみだと思われる。

近年でも、日本山妙法寺僧伽の藤
井現下をはじめとする僧俗の方々が
「平和運動」への撃鼓唱題行脚を実践
せられ、世界的に大きな反響と共感

「妙法を弘める」

本門佛立宗 深澤泉奥

「門下より」より、「七五〇に向
けて」何か意見・発想・提案などを
執筆せよ、との依頼がきましたので
全く個人的立場での発言という点を
初めにお断り申し上げ、思いつくま
ま感じのままを、創立当時の先師上
人方の門下連合を生み出したところ
を思い探りつつ、事業の各項目につ
いて提案を試みてみます。

① 祖廟護持の組織強化。
国柱会が現在も定期的に参詣給仕
されているようですが、宗義的な意
味でなく、門下共通の歴史的聖跡と
して、当初各派の代表が申し合わせ
た事実を、もう一度かつての輪番制
にならって、各派が一年交替で祖廟
護持のお給仕をさせていただくな
ど、立教開宗七五〇年を機に行うの
はどうでしょうか。

② 教育事業の提携。
現在、陣門流、顕本法華宗、真門
流による「三宗統合協議学生講座」
という交流が定期的に実施されてい

をもたられた実績が示されている
ように、その為にも門下教団の青年
僧組織、たとえば日蓮宗の「全日青」、
わが顕本でいえば「顕青会」など各
門流青年会組織が、連携を図って共
通テーマを掲げ全国規模で一大キャ
ンペーンを展開して欲しいと切望す
るものである。

また平成十四年の当年に向けて、
全国各地(門流各本山をメイン会場
として)で法華経と日蓮大聖人の教
えを宣伝する一般大衆向けのセミナ
ー・シンポジウムの継続的開催を
実現していただきたいと念願してやま
ない。

同時に過去の聖年の節目にも実施
された、門流格調の貴重な歴史的遺
産の一般公開「日蓮聖人にまつわる
什宝展」をはじめとする公開キャン
ペーン実施など、現代社会、大衆に
向けてアピールしていくことが必要
ではないかと思う。
門下連合会の更なる発展拡充と充
実を念願いたします。

と伺っています。この他、各派の
学林主催による研究発表などに招待
交流も二、三伺っています。教育事
業として門下連合が主体(主催)と
なって立教開宗七五〇年を機に、門
連大学などと称して夏季一定期間
を、祖師学・布教学・社会福祉学な
どの講座を設けて研鑽してみても
いい。

③ 布教の連合強化。
前項の門連大学などの講座で学ん
だことを共通の土台として、御題目
を知らない・唱えない一般社会へ、
妙法の大切さを認知させるべく、七
五〇年を機に各派連名の名前入りで
新聞やテレビに時折り意見広告を
表示してみてもどうでしょうか。
④ 懇談会・研究会・講演会等の開催。
②項で述べたように、それぞれで
は個々に実施しているようです。七
五〇年を機に、各分野の学術的に実
践的に世界的権威の講師を、門連主
催で招いて研究会や講演会を開いた
り、専門家を交えた懇談会を催すな

ど、現在の理事会から組織的拡充を
計って「門連事業の実行委員会(仮
名)」を作って実行して行くべきと提
案します。

⑤ 各種出版物の刊行。
とりあえず、現在各派の研究誌に
発表されている論文の中から選出し
ていただいて宗外に公開していただ
く、そこから派生して反論や更に深
く掘り下げた研究が発表されるなど
の効果も生まれるでしょう。
それから、各寺院でコツコツと布
教のための副読本として製作された
小冊子や信仰啓蒙のテキストなど
も、門連として発刊してみてもいい。

⑥ 海外布教の提携及び交流。
仮称「実行委員会」によって、ま
ず各派の現状・現在ある海外拠点の
所在地・連絡方法担当名、活動概況
を公開提供いただき、それを取集整
理して、各派にフィードバックして
もらう。もちろん海外の各派の拠点
にも資料提供するといい。
そのうえで、各派の海外拠点の活
動現況と問題点・並びに希望事項を
あげてもらい、出来る限りそれらに
対処して行くよう門連で処理する。

⑦ 対外的な各種の運動。
青年の船の参加メンバーたちは、
十七年経た現在も交流し、信心増進
の糧となつていくようです。
あまり大上段に振り構えるのでは
なく、七百遠忌では四大事業をもつ
て世間宗外にアピールしたように、
今回もそれ以上のイベントをもつて
門連あげての力強さを見せる事が、
そのままた対外的な運動の柱となる
と考えます。

本項の解釈としては、多分、現代
社会がかかえている問題に対する具
体的な運動を意味しているのではな
いかと思えますが、例えば、ポラン
ティアとか環境汚染問題、核兵器実
験反対など。それ自体は確かに尤も
であり、必要性もありませんが、門下
生としては、本末を混同してはなら
ないと考えます。
いま私たちが為すべきことは、こ
のような時代世相だからこそ、世間
の動きに迎合する事なく角度をかえ
て一段高い法華経の、即ち日蓮聖人
のみ教え・生き方・在り方・物事に
対する処し方を、正々堂々と世間に
知らしめ訴えて行くことこそ、対外

的運動であり、各種という言葉に惑
わされてはなりません。
その意味で、今回まず打ち出され
たイベント「法華信仰者の芸術文化
展」は素晴らしい企画であります。
願わくはこの展示会においても必ず
展示品に対する作者の信仰的背景を
解説して頂きたい次第です。

以上のように、門連の規約申し合
わせに照らした見ただけでも、その中
には立教開宗七五〇年に向けて為す
べき事業はその気になれば山ほどあ
るといことが判ります。
更に七百遠忌でのイベントを門連
の次世代への法灯相統・妙法伝承の
為と、位置づけますと、成功したこ
とをもう一度行うことも悪くありま
せん。

歴史を垣間見れば、古代より神仏
への畏敬を祀り事(政)として四季
折々の節にイベントを行ってきたの
であり、常に人類の歴史はイベント
の繰り返しであったはずで、形や
規模こそ変われ、本質的な趣は古今
を通じて全く変わっておりません。
いま前例にならって、実行すべき
イベントの案を具体的に呈すれば、
① 既に決定された「法華信仰者の
芸術文化展」は、発想も素晴らしい
規模もとても良いと思えます。これ
を東西の二カ所だけで終わらせるの
は見学者が少なく限られてしまいま
す。より広く、例えば北は札幌、東
北は仙台か盛岡あたりで、中部地区
の名古屋、中国地区の岡山、九州博
多か熊本など、主要都市での開催を
希望します。

② 劇や映画は、今回も行いたいも
のです。良いものは真似して取り入
れる前向きな姿勢でいけば、立教開
宗をテーマにしたアニメーション版
日蓮聖人伝記や、パレー、ジャズや
ラテンロックなどの表現を、今か
ら公募したら面白い何か生まれそ
うです。故・黛敏郎氏の「オラトリ
オ日蓮」、立正佼成会で出された松下
真一氏の「仏陀」も大作で、法華経
の表現方法もこんな凄まじい形ので
きたと感銘しました。

「妙法」「立教開宗」などをテーマ
にしたオーケストラや文学があつた
ら素敵です。
各派のお祖師様関係の小説・伝記
評論・エッセイなどを一同に集めた

ブックフェアを、前述の各主要都市
にて順次開催したら、法華日蓮思想
のたいなる啓蒙となるでしょう。

③ 青年の船はどうでしょうか。前回
大成功した参加者、殊には当時の実
行委員の多くは各派の要職に携わっ
ているようですので、前回以上の内
容の充実したものができそうです。
船もはるか大きく新しい国産の「飛
鳥」や「富士」などが就航していま
す。目的地も清澄から天台山なども
いいでしょう。

もっと世界的に視野を入れようと
言うなら、「青年の翼」を清澄のある
千葉成田から、全世界七つの大陸に、
南無妙法蓮華経の七文字にならって
特別チャーター機を七機飛ばすのも
いいでしょう。前回は五〇〇名の参
加青年がいました。
当時から十七年経った現代は、い
とも簡単に若者達は海外に出掛けて
行きます。各派のもっている海外拠
点を中心に海外の青年信徒たちと交
流するのも「一天四海皆妙法」の
一翼を担うことになるでしょう。シ
ルクロード仏教の源流を尋ねるとい
う企画もあります。いずれも、やろ
うと思えば即実行できるものばかり
です。

以上が、七百遠忌イベントを改良
拡大して提案してみたものです。
この他、十六号・十七号の座談会
で提案されていた、「唱題行脚」も良
いと思えます。加えて言えば、オリ
ンピックの聖火リレーのように清澄
から全国の各派寺院へ、「唱題行脚」
したり、逆に清澄へ集結したりとい
う方法も浮かびます。
また、今はやりのテーマパーク方
式を取り入れて、千葉のどこかに門
連で土地をある期間借りて、そこに
「お祖師様のすべてを知らう」をテ
マにした、一代記コーナー、ブック
フェアコーナー、ご遺品コーナー、
体験コーナー等々、夢は万博のよう
に拡がります。

最後に、もう一つ門連以外の法華
経系の新興宗教団体にも呼びかけ
て、懇談会や共同イベントなどを
行うことも考えてみたい。
大切なことは、「妙法を弘める」こ
となのであり、そのためのあらゆる
努力は、可能な限り実行すべきと思
え、筆をおきます。



舞見御中 暑

平成十年戊寅

<p>日蓮宗総本山 身延山久遠寺</p> <p>〒409-2524 山梨県南巨摩郡身延町身延 電話 〇五五六六(二)一〇一一 FAX 〇五五六六(二)一〇九四</p> <p>法主 岩間 日勇 総務 藤井 教雄 役員 一同</p>	<p>日蓮宗大本山 池上本門寺</p> <p>〒146-8576 東京都大田区池上一一一一 電話 〇三三七五(二)三三三三 FAX 〇三三七五(二)三三五〇</p> <p>賞首 田中日淳 役員 市川智康</p>	<p>顕本法華宗総本山 妙満寺</p> <p>〒606-0015 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一 電話 〇七五(七九)七二七一 FAX 〇七五(七九)七二六七</p> <p>賞首 吉永 日晴 総務 大川 定信 執事 安東 靖弘 執事 山本 晃道 執事 津村 乘信 執事 小松 正学</p>	<p>法華宗(陣門流)総本山 本成寺</p> <p>〒955-0845 新潟県三条市西本成寺一一一一〇 電話 〇二五六(三三)〇〇〇八</p> <p>賞首 竹嶋 日香 執事 笹原 壯玄 執事 西山 英仁 執事 鈴木 正仁 執事 栗田 孝之 執事 高橋 俊二 執事 下間 要一</p>
<p>法華宗(真門流)総本山 本隆寺</p> <p>〒602-8447 京都市上京区智恵院通り五辻上ル紋屋町 電話 〇七五(四四)五七六二 FAX 〇七五(四四)五六六六</p> <p>賞主 真枝 日世 執事 岩崎 峻暉 執事 笹木 研秀 執事 矢放 真文</p>	<p>本門法華宗大本山 妙蓮寺</p> <p>〒602-8418 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五 電話 〇七五(四五)三三二七 FAX 〇七五(四五)三五九七</p> <p>賞首 松本日望 役員 飯田信栄 役員 一同</p>	<p>日蓮宗 本山要法寺</p> <p>〒606-8362 京都市左京区新高倉通孫橋上九法皇寺町四四八 電話 〇七五(七七)三三九〇 FAX 〇七五(七七)五九一四</p> <p>賞首 嘉儀 日有 大学 頭 丹治 日遠 執事 田中 良英 執事 今村 要道 執事 岩崎 隆義 執事 佐藤 哲夫</p>	<p>本門佛立宗本山 宥清寺</p> <p>〒602-8336 京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇五一 電話 〇七五(四六)三三〇四 FAX 〇七五(四六)三三〇四</p> <p>住持 井上 日慶 二王世 藤隆 之 事務局 伊藤 隆之</p>
<p>立教開宗之霊地 出家得度</p> <p>日蓮宗大本山 清澄寺</p> <p>〒299-5565 千葉県安房郡天津小湊町清澄 電話 〇四七〇(九四)〇五二五</p> <p>別当 杉山 日慎</p>	<p>日蓮宗大本山 妙顕寺</p> <p>〒602-0005 京都市上京区寺ノ内通堀川東入</p> <p>賞首 山田 一光 役員 原光 司</p>	<p>宗祖御誕生霊場 日蓮宗大本山 誕生寺</p> <p>〒299-5501 千葉県安房郡天津小湊町小湊一八三 電話 〇四七〇(九五)二六二一</p> <p>賞首 石川 日命</p>	<p>日興上人御廟所 日蓮宗大本山 富士山本門寺</p> <p>〒418-0112 静岡県富士宮市北山四九六五 電話 〇五四四(五八)一〇〇四 FAX 〇五四四(五八)二五一七</p> <p>賞首 本間 日諄 執事 本間 正晃</p>
<p>日蓮宗大本山 法華経寺</p> <p>〒272-0813 千葉県市川市中山二一十一 電話 〇四七三(三四)三三三三</p> <p>賞首 長瀬 日還 執事 富田 義康 執事 関田 智清 執事 新井 智清 執事 植田 観泰 執事 広野 観泰 執事 土田 勝宏</p>	<p>久遠成院日親上人御霊窟 日蓮宗本山 本法寺</p> <p>〒602-0061 京都府京都市上京区小川通寺ノ内上九本法寺前町六一七 電話 〇七五(四四)一七九九</p> <p>賞首 金山 日龍</p> <p>重文涅槃図長谷川等伯筆 名勝巴の庭本阿弥光悦作</p>	<p>やくよけ祖師 日蓮宗本山 堀之内妙法寺</p> <p>〒166-0013 東京都杉並区堀之内三二四八一八 電話 〇三(三三)三三三三</p> <p>山主 駒野 教格</p>	<p>日蓮宗本山 頂妙寺</p> <p>〒606-8376 京都府京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六 電話 〇七五(七七)一〇五六二</p> <p>賞首 永田 恵遠 執事 山田 完修 執事 新井 智清 執事 末吉 啓宣 執事 藤井 照源 執事 川合 陽雄 執事 二之部 知孝</p>

門連時報

身延山祖廟参詣 理事会開催される

日蓮聖人門下連合会加盟各派代表者による身延山の祖廟参詣・理事会が六月十一日行なわれた。

当日午前十一時三十分、祖廟常設館に参集。常設館大広間正面右に、門下連合会結成当時つくられた、門下連合会の「祖廟輪番奉仕団旗」が今回より飾られている。門下連合会の祖廟中心の理念がこの旗に象徴されているが、現在この旗を先頭に輪番奉仕を行なっているのは国柱会のみである。

門連結成当時をかえりみる意味をこめ、今回はこの団旗を先頭に行列を組み、撃鼓唱題祖廟に進んだ。祖廟では永井祥文理理事長を導師として至心に異体同心の法味を捧げ、七五〇立教開宗に向けて邁進を誓った。続いて御草庵跡を参拝した。



参加者全員で記念撮影

見学した。

新書院で藤井教雄総務の出迎えを受け、昼食。午後二時身延山大学会代室に会場を移し理事会を開催。

恒例に依り永井理事長長となり議事進行。平成九年度事業報告、決算報告、平成十年度事業計画、予算案が承認された。

次に任期に依る監査退任の法華宗本門流芹沢謙謙師が辞任挨拶。昨年日蓮宗より就任した持田貫宣師が就任の挨拶を行なった。芹沢師の後任については法華宗陣門流、土屋宗務

総長より同宗前宗務総長の牧野琢成師の推薦あり、全員異議無く承認され、牧野師が就任の挨拶を行なった。

次に地方門連活動に関し、京都門連を代表して岩崎峻暉理事長が報告、御降誕会、立教開宗会、夏期大学お会式など、平成九年度事業に関する詳細を報告、平成十年度事業計



祖廟輪番奉仕団、団旗

画の発表を行なった。

大阪門下懇話会木下恵温理事長は会の構成(二七四名)、組織(理事一九名)、総会、報恩行事として合同お会式、京都本山めぐりの実施など、活動報告、飛躍の発展を期したいと抱負を語った。

北海道門連佐藤光春理事長は、北海道門連として特に顕著な事業活動に力をつけているが、より充実した活動を目指すことを語った。

理事会最後の案件は立教開宗七百五十年慶讃記念事業に関する件で、懸案の「法華信仰者の芸術文化展」に関し、大橋常任理事が報告を行なった。

「各宗派所蔵について調査票回収が思うように捗らない現状に鑑み、立正大学教授、坂輪宣敬師に正式依頼、リスト作成をお願いした。その結果は別紙資料の通り二七七点に及ぶリストを提出していただいた。もとよりこのリストは第一次案であり、存・没追加はこれからの作業であるとの坂輪教授のコメントも頂いている。」

右報告をふまえ、今後推進の方向で内容検討、博物館側とも接渉を行ない、門連常任理事会に報告しながら企画推進をはかることが諒承された。午後四時会議を終え、下部ホテルにて身延山当局を交えなごやかに懇親会が行なわれ、翌十二日散会となった。

京都日蓮聖人門下青年会 平成十年度総会開催

京都日蓮聖人門下青年会(梅本光祥幹事長―日蓮宗)の平成十年度総会が、太公で開催され、各宗各派会員十五名が参加した。平成十年度会務計画が報告され、門下連合会の各行事参加を中心に、唱題行脚、勉強会、バレーボール大会、OBとの懇親会、研修会等が了承された。又、平成十年度会計予算も了承され、今後の門下青年会の大同団結を誓い合い懇親を深めた。梅本幹事長は「設立の原点に立ち返り、行学二道・親睦を中心に活動の展開を図って行きたい」と方針を語っている。平成十年度役員は、幹事長―梅本光祥(日蓮宗)、副幹事長―阿南光節(本門法華宗)、副幹事長―二之部知孝(日蓮宗)、庶務―藤井照源(日蓮宗)、庶務―藤井照源(日蓮宗)。



京門連青年会

京都日蓮聖人門下連合会降誕会奉行 平成十年度総会開催

京都日蓮聖人門下連合会(岩崎峻暉理事長―法華宗真門流)は、二月十六日、法華宗真門流本山本降誕会に於いて、宗祖日蓮大聖人御降誕会慶讃法要を奉行し、僧侶檀信徒約百名が参加した。

法要に先立ち、平成十年度総会が開催され、眞枝日世会長(法華宗真門流本山本降誕寺貫首)、金山寛成副会長(日蓮宗本山本降誕寺貫首)、岩崎峻暉理事長の挨拶があり、議長に杉若忠隆副理事長(日蓮宗)を選出し、平成九年度会務報告、同決算、平成十年度役員紹介、同会務事業計画、同予算案を承認した。

法要は眞枝貫首を導師に、岩崎理事長と杉若副理事長が副導師にて厳修され、参列者一同宗祖の御降誕を讃えた。



団旗を先頭に祖廟前へ

法要後、本山立本寺加藤貫雄貫首による「降誕会について」の法話が、三業受持のお題目であり、我々はそれを見習って行かなければならないことを強調され、参詣者は信仰の心の糧を導く得た。そして、おうどの供養があり、御降誕会の日程を終了した。

尚、今後の予定として、夏季大学(八月二十六日―本能寺文化会館)、御会式(十月三日)が奉行される。(藤井照源)

日蓮宗新聞社出版案内

お申し込みは 日蓮宗新聞社
東京都大田区池上7-23-3
〈全品千実費〉TEL.03(3755)5271

ひとこと説法

「日蓮宗新聞」題字下の
人気コラムが本に。

今や末法の世、金融崩壊・汚職・青少年の暴力事件、そんな悩める現代の人々の心に効く良薬。法華経や日蓮聖人のお言葉を一席のお説法に乗せた、心と時代の処方箋。全国七十四管区の布教師会長による三百編のお説法。

監修/日蓮宗護法伝道部
推薦/日蓮宗全国布教師会連合会

A5判ハードカバー三二四ページ
定価一、七〇〇円(本体一、六〇〇円)

①「富木尼御前御返事」に聞く
矢の走ることは
弓の力 三〇〇円

②「清澄寺大衆中」に聞く
日本第一の智者と
なしたまえ 三〇〇円

③「孟蘭盆御書」に聞く
自身仏に成らずしては
父母をだにも救いがたし 三〇〇円

④「安国論御勸由來」に聞く
前代に超えたる
大地震 三〇〇円

⑤「妙心尼御前御返事」に聞く
病によりて道心は
起こり候か 三〇〇円

⑥「新尼御前御返事」に聞く
この五字の
大曼荼羅 三三〇円

